



タイトル「**2011年度シラバス**」、開講所属「**全学教育-全学_人文・社会科学科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	水2
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20110566003006	科目番号	05660030
授業科目名	●言語と芸術(詩と音楽の理解～歌曲研究)		
編集担当教員	宮下 茂		
授業担当教員名(科目責任者)	宮下 茂		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	宮下 茂		
科目分類	人文・社会科学科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室	[教]音1番		
対象学生(クラス等)			
担当教員Eメールアドレス	miyamo@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	教育学部 音楽棟2階 204号室		
担当教員TEL	819-2345		
担当教員オフィスアワー	Eメールでの質問又は研究室前質問受付時間掲示参照		
授業のねらい	本科目は、ドイツと日本の歌曲を取り上げ、詩と音楽、音楽描写等により、音楽と人、芸術と人との関わりを知り、詩と音楽、詩人と作曲家への理解を深めることを目的とする。		
授業方法(学習指導法)	配布資料を基に授業内容の解説を行い、同時に詩や音楽の視聴を行い、それらの理解を深めるように展開する。		
授業到達目標	詩と音楽、詩人と作曲家への理解等、授業内容を理解し、授業内容に対する自身の考えを持ち、自身の考えを述べる ことができる。又は授業内容に対する疑問を述べる ことができる。		
授業内容	回	内容	
	1	季節の歌～春Ⅰ	
	2	季節の歌～春Ⅱ	
	3	歌曲の歴史Ⅰ～導入～日本の歌曲(西洋音楽)の歴史①	
	4	歌曲の歴史Ⅱ～日本の歌曲(西洋音楽)の歴史②	
	5	詩と音楽の出会いⅠ～ドイツ歌曲の歴史	
	6	歌、歌曲、オペラ、声楽…声楽ジャンルについてⅠ	
	7	歌、歌曲、オペラ、声楽…声楽ジャンルについてⅡ	
	8	詩と音楽の出会いⅡ～ドイツ語と音楽	
	9	詩と音楽の出会いⅢ～詩と音楽	
	10	文学的意味と音楽的表現Ⅰ～言葉と旋律について	
	11	文学的意味と音楽的表現Ⅱ～音楽的手法の意味について①	
	12	文学的意味と音楽的表現Ⅲ～音楽的手法の意味について②	
	13	文学的意味と音楽的表現Ⅳ～音楽的手法の意味について③	
	14	ロマン派～「さすらい」について	
	15	音楽から見た「世界の言葉」と「学べる喜び」	
16	全授業の総括		
キーワード	歌曲 声楽 クラシック 音楽		

教科書・教材・参考書	授業計画に沿い、詩、訳詞等のプリント資料を配布する。音楽の視聴はCD、DVD、生演奏(歌とピアノ)を活用する。
成績評価の方法・基準等	毎回提出の授業レポートを評価する。(授業内容の理解・疑問、自身の考え等を提出。授業レポートの内容によっては、提出状況に関わらず評価を得ない場合がある。)
受講要件(履修条件)	教室の座席定員が36名のため、最大受講者数を36名とします。その為、第1回の授業の先着36名で受講を締め切る場合があります。
本科目の位置づけ	
学習・教育目標	
備考(URL)	
備考(準備学習等)	



Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.



シラバス参照

LiveCampus

タイトル「**2011年度シラバス**」、開講所属「**全学教育-全学_人文・社会科学科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	水3
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20110566003004	科目番号	05660030
授業科目名	●言語と芸術(文学者の生と死)		
編集担当教員	山本 建雄		
授業担当教員名(科目責任者)	山本 建雄		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	山本 建雄		
科目分類	人文・社会科学科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室	[全]227		
対象学生(クラス等)	1年、2年、3年、4年		
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室	教育学部 623		
担当教員TEL	819-2300		
担当教員オフィスアワー	水曜 II		
授業のねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の中で取り上げた個々の作家の生、創作と死生観の関わり について理解できる。 ・個々の作家の死生観と受講者のそれとを関係づけ、自己の死生 観の充実に役立てることができる。 ・受講者相互に、作家の死生観の理解や自己の死生観について意 交換ができる。 ・授業で取り上げなかった作家の生、創作と死生観との関わりに ついて理解を広げられる。 		
授業方法(学習指導法)	<ul style="list-style-type: none"> ・作家の生、創作と死生観との関わりについて、文献を用い授業 者が講義する。 ・授業で取り上げた話題について、受講者が意見・感想を記述し たり、話し合ったりする。 ・受講者が、関心のある作家について、生、創作と死生観の関わ りを調べ、発表する。 		
授業到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の作家の生、創作と死生観との関わりについて、簡明に表 現できる。 ・作家達の死生観を踏まえつつ、受講者自身の死生観について文 章化や、話し合いができる。 ・自分の関心に従い調べた作家の死生観について、分かり易い紹 介ができる。 		
授業内容	回	内容	
	1	4月6日 本授業の目的、内容、方法等についての概略の説明。	
	2	4月13日 生と死を巡る今日的状況と受講者の問題意識の確認。	
	3	4月20日 正岡子規における場合。	
	4	4月27日 夏目漱石における場合。	
	5	5月11日 芥川龍之介における場合。	
	6	5月18日 森鷗外における場合。	
	7	5月25日 樋口一葉における場合。	
	8	6月1日 石川啄木における場合。	
		6月8日	

	9	宮沢賢治における場合。
	10	6月15日 斉藤茂吉における場合。
	11	6月22日 高村光太郎における場合。
	12	6月29日 金子みすずにおける場合。
	13	7月6日 遠藤周作における場合。
	14	7月13日 作家の死生観を踏まえた自己の死生観を巡る話し合い。
	15	7月20日 関心に従い調べてきた作家の死生観について記述。
	16	8月3日 これまでの授業の振り返りと今後の課題の確認。
キーワード	近現代の作家 死生観 創作 生き方 死	
教科書・教材・参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・教材は、毎回授業者が用意する。 ・授業の中で取り上げた作家及び作品については、関連する新書、文庫を用い理解を広げる。 ・参考となるものについては、授業の中で随時紹介する。 	
成績評価の方法・基準等	<ul style="list-style-type: none"> ・授業内容の理解度を評価する為に、小テストを 4, 5回実施する。 ・話し合いの折には、経過と成果について報告を各自に求める。 ・上記の評価を総合して、本授業の評価とし、6 %以上の達成度をもって合格とする。 	
受講要件(履修条件)	<ul style="list-style-type: none"> ・終わりの15回まで受講する意志があること。 ・授業終了までに、関係する図書を3冊以上読む意志があること。 	
本科目の位置づけ	文学と死生観の学習の両面にわたる。	
学習・教育目標	上記の「授業到達目標」参照。	
備考(URL)		
備考(準備学習等)		





タイトル「**2011年度シラバス**」、開講所属「**全学教育-全学_人文・社会科学科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	金1
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20110566003007	科目番号	05660030
授業科目名	●言語と芸術(日本音楽概論)		
編集担当教員	福井 昭史		
授業担当教員名(科目責任者)	福井 昭史		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	福井 昭史		
科目分類	人文・社会科学科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室	[全]321		
対象学生(クラス等)			
担当教員Eメールアドレス	a-fukui@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	教育学部音楽棟202		
担当教員TEL	095-819-2342		
担当教員オフィスアワー	金曜日の午後、その他在室時は常時相談可		
授業のねらい	日本の伝統音楽について、各々の種目とその歴史、概要、音楽の特徴、芸能との関わりなどについての理解を深める。		
授業方法(学習指導法)	日本の伝統音楽の各種目について、その概要や歴史を解説する。さらにそれぞれの代表的な楽曲を鑑賞し、その特質を理解する。		
授業到達目標	日本の伝統音楽の種目とその歴史や概要を理解している。 楽曲を視聴したり聴取することで、その種目を識別でき、その特質を答えることができる。		
授業内容	回	内容	
	1	日本の伝統音楽の概要	
	2	雅楽の各種目と概要	
	3	正倉院の楽器と雅楽寮の音楽	
	4	仏教の音楽・舞楽法要と声明	
	5	琵琶楽の概要とその歴史	
	6	能楽の概要・神事芸能と大衆芸能の音楽	
	7	謡曲の表現・ノリ型と吟型	
	8	能楽の楽器と表現・急の舞の謡曲と囃子	
	9	能と歌舞伎の表現・松葉目物と長唄の表現	
	10	三味線の伝来と発展	
	11	語り物音楽・浄瑠璃の各種目	
	12	歌舞伎の音楽・出囃子と黒御簾の音楽	
	13	歌舞伎と文楽・同一演目の音楽表現	
	14	箏曲の歴史と各流派の表現	
	15	三曲の楽器と表現・近世邦楽と現代邦楽の特質	
	16	学習内容のまとめと成果の評価	
キーワード	日本音楽、伝統芸能		

教科書・教材・参考書	「よくわかる日本音楽基礎講座」音楽之友社
成績評価の方法・基準等	授業への取り組み・出席状況など平常点50%、試験50%
受講要件(履修条件)	日本の伝統音楽の学習や鑑賞に興味がある者であること
本科目の位置づけ	日本の伝統音楽の理解
学習・教育目標	日本の伝統音楽についての理解を深める。
備考(URL)	
備考(準備学習等)	



Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.



シラバス参照

タイトル「**2011年度シラバス**」、開講所属「**全学教育-全学_人文・社会科学科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	金4																														
開講期間																																	
必修選択	選択	単位数	2.0																														
時間割コード	20110566003002	科目番号	05660030																														
授業科目名	●言語と芸術(彫刻の世界)																																
編集担当教員	佐藤 敬助																																
授業担当教員名(科目責任者)	佐藤 敬助																																
授業担当教員名(オムニバス科目等)	佐藤 敬助																																
科目分類	人文・社会科学科目																																
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目																														
教室	[教]12講義室																																
対象学生(クラス等)	全学部・留学生35名限定																																
担当教員Eメールアドレス	keisuke@nagasaki-u.ac.jp																																
担当教員研究室	教育学部美術技術棟102号室																																
担当教員TEL	095-819-2349																																
担当教員オフィスアワー	毎週水曜日午後1時30分～2時30分事前アポイントの事																																
授業のねらい	立体(彫刻の世界)を通してその現実の日常空間を見つめながら、その素晴らしさを楽しむことができるようにする事を目的として、小さな軟石を削ったり磨いたりしながら作品制作をしながら生活の中の豊かさを見つめてみたい。																																
授業方法(学習指導法)	講義及び実際の作品(石を彫ったり削ったり磨いたり)制作。また、彫刻の作品鑑賞も含む。																																
授業到達目標	彫刻の作品鑑賞や作品制作を通して立体的な感性についての理解を深め、その感性を内包する自身の分析の一端をできるようにする。																																
授業内容	<p>概要: 日常の生活空間は3次元であるはずなのに、その生活に対する意識の大半は2次元の要因を元にして営まれているといっても過言ではないようである。そこで、この授業においては、比較的やわらかい石を彫ったり削ったりして出来る「EXLIBRIS(蔵書印)」の制作を通してその現実の日常空間を見つめながら、その素晴らしさを楽しむようにすることを目的としながら、生活の中の豊かさを考えてみたい。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>4月8日ガイダンス・授業進行予定・彫刻の見方・美術の鑑賞の仕方的一端について</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>長崎市の彫刻の鑑賞・彫刻というものの制作の過程</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>「EXLIBRIS」とは</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>石材を手にしながらの着想とアイデアスケッチ</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>EXLIBRISの制作開始</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>EXLIBRISの制作</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>EXLIBRISの制作</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>EXLIBRISの制作</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>EXLIBRISの制作</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>EXLIBRISの制作</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>EXLIBRISの制作</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>EXLIBRISの版面の制作</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>EXLIBRISの版面の制作</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>EXLIBRISの印刷</td> </tr> </tbody> </table>			回	内容	1	4月8日ガイダンス・授業進行予定・彫刻の見方・美術の鑑賞の仕方的一端について	2	長崎市の彫刻の鑑賞・彫刻というものの制作の過程	3	「EXLIBRIS」とは	4	石材を手にしながらの着想とアイデアスケッチ	5	EXLIBRISの制作開始	6	EXLIBRISの制作	7	EXLIBRISの制作	8	EXLIBRISの制作	9	EXLIBRISの制作	10	EXLIBRISの制作	11	EXLIBRISの制作	12	EXLIBRISの版面の制作	13	EXLIBRISの版面の制作	14	EXLIBRISの印刷
回	内容																																
1	4月8日ガイダンス・授業進行予定・彫刻の見方・美術の鑑賞の仕方的一端について																																
2	長崎市の彫刻の鑑賞・彫刻というものの制作の過程																																
3	「EXLIBRIS」とは																																
4	石材を手にしながらの着想とアイデアスケッチ																																
5	EXLIBRISの制作開始																																
6	EXLIBRISの制作																																
7	EXLIBRISの制作																																
8	EXLIBRISの制作																																
9	EXLIBRISの制作																																
10	EXLIBRISの制作																																
11	EXLIBRISの制作																																
12	EXLIBRISの版面の制作																																
13	EXLIBRISの版面の制作																																
14	EXLIBRISの印刷																																

	15	EXLIBRISの印刷と作品提出および全授業のまとめ
	16	
キーワード	彫刻(美術)の鑑賞と制作	
教科書・教材・参考書	必要に応じて資料を配布。5回目以降、制作に必要な用材と道具を必要とします。また、教材費として一人2000円程度かかる見込みですので、準備をお願いいたします。また道具として、鉄鋸・5寸釘1—2本・彫刻刀・マイナスのドライバ—紙やすり100番・180番・新聞紙—朝刊分程度・軍手も準備してください。	
成績評価の方法・基準等	提出作品画像45%・レポート45%・授業への積極的な取り組み状態10%	
受講要件(履修条件)	履修者多数の場合は、4月8日(金)の最初の授業時に抽選をして受講者を決定します。	
本科目の位置づけ		
学習・教育目標		
備考(URL)		
備考(準備学習等)	授業の中で作業をとまなうかたちとなるため、汚れを防ぐもの(エプロン等)を各自で準備してください。	



Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.



シラバス参照

タイトル「**2011年度シラバス**」、開講所属「**全学教育-全学_人文・社会科学科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	後期	曜日・校時	水3
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20110566003003	科目番号	05660030
授業科目名	●言語と芸術(長崎の音楽文化活動)		
編集担当教員	堀内 伊吹		
授業担当教員名(科目責任者)	堀内 伊吹		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	堀内 伊吹		
科目分類	人文・社会科学科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室	[全]201		
対象学生(クラス等)	主対象、1年		
担当教員Eメールアドレス	horiuchi@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	教育学部音楽棟2階206(改修工事の場合は変更します)		
担当教員TEL	095)819-2343		
担当教員オフィスアワー	水曜日 5時間目		
授業のねらい	長崎の音楽文化活動の実態を概観し、実際に文化ホールに出かけ、音楽鑑賞を行う。		
授業方法(学習指導法)	視聴覚機器を活用しての講義とホールに出かけての演習。		
授業到達目標	音楽文化を取り巻く状況が理解でき、実際の演奏会を鑑賞し、生の演奏に触れる喜びを感じ取ることができる。		
授業内容	回	内容	
	1	10/5:この授業の進め方、ガイダンス	
	2	10/12:「マダム・バタフライコンクールと国際交流①」	
	3	10/19:②「マダム・バタフライコンクールと国際交流②」	
	4	10/26:文化ホールに出かけ、実際にコンサートを鑑賞しよう①	
	5	11/2:長崎の音楽文化事情について①「文化ホールの自主文化事業」	
	6	11/9:長崎の音楽文化事情について②「文化ホールの自主文化事業」	
	7	11/16:新しい音楽のカタチ「映像と音楽」	
	8	11/30:新しい音楽のカタチ「物語と音楽」	
	9	12/7:美術と音楽(長崎県美術館の取り組み)	
	10	12/14:クリスマスの音楽	
	11	12/21:長崎県美術館のロビーコンサートに参加してみよう	
	12	1/11:比較する楽しみ「音楽聴き比べのススメ」	
	13	1/18:音楽のジャンルについて	
	14	1/25:長崎の音楽文化はどうなるのか	
	15	2/1:音楽で語ること、音楽を語ることについて	
16			
キーワード	音楽文化、文化ホール、自主文化事業、音楽祭		
教科書・教材・参考書	岡田暁生著「音楽の聴き方」(中公新書) 養老孟司、久石譲著「耳で考える」角川ONEテーマ21		

成績評価の方法・基準等	推薦する演奏会から2つを選択し、自分の意見を交えた音楽鑑賞レポートを提出。レポートによる評価を行う。
受講要件(履修条件)	心を静めて音楽鑑賞ができること
本科目の位置づけ	
学習・教育目標	芸術的な感性のトレーニング、音楽を聴くための基礎知識の習得
備考(URL)	
備考(準備学習等)	



Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.



長崎大学 学務情報システム

NU-Web System

メニューへ
MENUログアウト
LOGOUT

シラバス関連 > シラバス参照 > シラバス検索 > シラバス一覧 > シラバス参照

[Login User](#)

『 全学教育 』

タイムアウトまでおよそ1800秒です。

印刷



シラバス参照

LiveCampus

タイトル「**2011年度シラバス**」、開講所属「**全学教育-全学_人文・社会科学科目**」
シラバスの詳細は以下となります。

[戻る](#)

学期	後期	曜日・校時	木1
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20110566003001	科目番号	05660030
授業科目名	●言語と芸術(美術の魅力を探る)		
編集担当教員	中川 泰		
授業担当教員名(科目責任者)	中川 泰		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	中川 泰		
科目分類	人文・社会科学科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室	[全]205		
対象学生(クラス等)	全学部		
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室	教育学部美術・技術棟2F		
担当教員TEL	095-819-2351		
担当教員オフィスアワー	木曜日12:00~12:30		
授業のねらい	美術における表現の喜びや感動を学ぶ		
授業方法(学習指導法)	実技を絡めながら、美術の表現と観賞を相互に深く関わらせ高める		
授業到達目標	人間を日常的なしばりから開放したり、身近な環境との出会いや交流を可能にしたりするような自由な発想、多様な表現方法ができる		
授業内容	回	内容	
	1	美術表現の意義と役割	
	2	美術表現の原点	
	3	現代美術の魅力	
	4	非現実的キャラクター(1)	
	5	非現実的キャラクター(2)	
	6	非現実的キャラクター(3)	
	7	作品鑑賞(1)	
	8	デジカメアート(1)	
	9	デジカメアート(2)	
	10	デジカメアート(3)	
	11	作品鑑賞(2)	
	12	コラージュによる不思議な世界(1)	
	13	コラージュによる不思議な世界(2)	
	14	コラージュによる不思議な世界(3)	
	15	美術の可能性を求めて	
16			
キーワード			
教科書・教材・参考書	教科書は使用しない		

	参考書については適宜紹介する
成績評価の方法・基準等	作品(40%)、レポート(40%)、積極的な参加(20%)
受講要件(履修条件)	実技を実施するので定員は50名以内
本科目の位置づけ	
学習・教育目標	
備考(URL)	
備考(準備学習等)	材料用具は自己負担であり、準備物は不可欠 制作に必要な時間は個人差があり、作品完成のために時間外での制作が必要

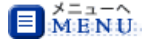


Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.



長崎大学 学務情報システム

NU-Web System



シラバス関連 > シラバス参照 > シラバス検索 > シラバス一覧 > シラバス参照

[Login User](#)

『 全学教育 』

タイムアウトまでおよそ1800秒です。

印刷



シラバス参照

タイトル「**2011年度シラバス**」、開講所属「**全学教育-全学_人文・社会科学科目**」
シラバスの詳細は以下となります。

戻る

学期	後期	曜日・校時	木2
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20110566003005	科目番号	05660030
授業科目名	●言語と芸術(日本語学概論)		
編集担当教員	池田 幸恵		
授業担当教員名(科目責任者)	池田 幸恵		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	池田 幸恵		
科目分類	人文・社会科学科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室	[全]403		
対象学生(クラス等)			
担当教員Eメールアドレス	yu-ikeda@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	環406		
担当教員TEL	819-2738		
担当教員オフィスアワー	木曜日14:30-16:00		
授業のねらい	現代日本語に興味を持ち、日本語に関する理解を深める。		
授業方法(学習指導法)	毎回宿題を出し、その解答を次回の講義で解説する。		
授業到達目標	正しい日本語表記ができる。日本語の語彙や文法についての知識を身につける。正しい敬語を理解する。		
授業内容	現代日本語に関する諸問題について、音声・文字・語彙・文法などのテーマごとに講義する。 第16回 定期試験		
	回	内容	
	1	オリエンテーション	
	2	日本語の音声(1)	
	3	日本語の音声(2)	
	4	日本語の文字(1)漢字	
	5	日本語の文字(2)仮名	
	6	日本語の文字(3)ローマ字	
	7	日本語の語彙(1)和語と漢語	
	8	日本語の語彙(2)外来語	
	9	日本語の語彙(3)語の意味	
	10	日本語の文法(1)自立語	
	11	日本語の文法(2)付属語	
	12	日本語の待遇表現(1)	
	13	日本語の待遇表現(2)	
	14	方言	
	15	まとめ	
16			
キーワード	日本語 文字 語彙 文法		

教科書・教材・参考書	教科書:プリントを配布する。 参考書:沖森卓也他『図解日本語』(三省堂、2006)
成績評価の方法・基準等	定期試験 50%、提出した宿題の質 50%
受講要件(履修条件)	
本科目の位置づけ	
学習・教育目標	
備考(URL)	
備考(準備学習等)	



Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.



シラバス参照

タイトル「2011年度シラバス」、開講所属「**全学教育-全学_人文・社会科学科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	後期	曜日・校時	木3																		
開講期間																					
必修選択	選択	単位数	2.0																		
時間割コード	20110566003008	科目番号	05660030																		
授業科目名	●言語と芸術(日本古典文学(神話・伝説・物語))																				
編集担当教員	勝俣 隆																				
授業担当教員名(科目責任者)	勝俣 隆																				
授業担当教員名(オムニバス科目等)	勝俣 隆																				
科目分類	人文・社会科学科目																				
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目																		
教室	[全]124																				
対象学生(クラス等)	全クラス																				
担当教員Eメールアドレス	katumata@nagasaki-u.ac.jp																				
担当教員研究室	教育学部653研究室(新館六階)																				
担当教員TEL	2299																				
担当教員オフィスアワー	水曜日放課後																				
授業のねらい	日本の神話・伝説・物語を紹介するので、その面白さと文学的意義について理解し、大学生として最低限知って欲しい日本の文学のあらましを知識として獲得する。その結果として、体系としての日本の文学を把握した上で、文学的な読み方、理解の仕方を身につける。特に、専門の一つとしている、星(天体)と文学の関係を通して、日本の文学の中に、星を中心とした天文現象が、どのように文学化されたかを紹介するので、古来からの日本人の天文に関する考え方を理解し、日本人は星に関心が無かったという誤った見方から解放されることを目指す。																				
授業方法(学習指導法)	プリントを使用し、毎回、1つのテーマに関する文学作品を紹介すると共に、その中に描かれている星を中心とした天文現象を取り上げて、その解釈、文学的な意義等について解説する。また、必要に応じて、パワー・ポイント等を使って、実際の天文の写真等を見てもらい、視覚的にも把握する。 さらに、講義内容について、疑問に思ったことを、毎回、最後に小レポートの形で提出してもらい、それについては、次の回に、主な質問について回答する。また、その小レポートは採点し、成績評価に入れる共に、出席確認にも利用する。																				
授業到達目標	1, 日本の文学のあらましについて体系的に理解する。 2, 文学の面白さを味わう。 3, 星を中心とした天文現象の日本の文学の中での位置や、存在の意味、それが表すものなどについて、正確に理解する。 4, 講義内容について、よく考え、疑問を常にもって講義に臨む態度を身につける。 5, 小レポートで、自分の意見を端的に表現できる。																				
授業内容	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>ガイダンス。日本の神話について(1)</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>日本の神話について(2)</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>日本の神話について(3)</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>日本の神話・万葉集・風土記について(4)</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>浦島伝説について</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>羽衣伝説について</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>七夕伝説について</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>平安前期の伝奇物語について</td> </tr> </tbody> </table>			回	内容	1	ガイダンス。日本の神話について(1)	2	日本の神話について(2)	3	日本の神話について(3)	4	日本の神話・万葉集・風土記について(4)	5	浦島伝説について	6	羽衣伝説について	7	七夕伝説について	8	平安前期の伝奇物語について
回	内容																				
1	ガイダンス。日本の神話について(1)																				
2	日本の神話について(2)																				
3	日本の神話について(3)																				
4	日本の神話・万葉集・風土記について(4)																				
5	浦島伝説について																				
6	羽衣伝説について																				
7	七夕伝説について																				
8	平安前期の伝奇物語について																				

	9 平安中期の歌物語・作り物語について
	10 平安末期の説話文学等について
	11 平安・鎌倉の歌集について
	12 鎌倉時代の軍記物語・説話文学について
	13 室町時代の御伽草子について(1)
	14 室町時代の御伽草子・謡曲等について(2)
	15 江戸時代の文学について
	16 試験
キーワード	神話・伝説・物語・文学・星・天文
教科書・教材・参考書	プリントを用意します
成績評価の方法・基準等	定期試験 50% 小レポート 40% 授業への意欲度 10%
受講要件(履修条件)	六割以上の出席。 小レポートへの熱意の有無。 試験の受験
本科目の位置づけ	人文に関する基本的教養科目。 考えることを重視した講義。
学習・教育目標	講義内容を鵜呑みにするのではなく、常に疑問を抱いて、よく考える習慣を身につけること。 日本の文学に関して知識を増やすこと。 文学と星という意外性のあるものの結び付きを面白いと感じ、同様な思考に自分でも挑戦する意欲を涵養すること。
備考(URL)	
備考(準備学習等)	参考文献 拙著『星座で読み解く日本神話』(大修館書店、二〇〇〇年)、拙著『異郷訪問譚・来訪譚の研究』(和泉書院、二〇〇九年)や、その他、日本の文学に関する書物を参考にして、勉学すること。

